

千葉県感染症発生動向調査情報

2025年 第20週 (5/12-5/18)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第20週	第19週	第18週	第17週
小児科	16	16	15	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	25	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段: 報告患者数、下段: 定点当たりの報告数

定点当たりの報告数: 報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	5/12-5/18 第20週	5/5-5/11 第19週	4/28-5/4 第18週	4/21-4/27 第17週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	4	2
	咽頭結膜熱		5	3	3	7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	55	41	40	66
	感染性胃腸炎	↑	98	61	67	116
	水痘		4	3	5	5
	手足口病		2	0	0	2
	伝染性紅斑	★★★↓	28	33	24	40
	突発性発しん		14	5	5	6
	ヘルパンギーナ		0	0	1	0
	流行性耳下腺炎		3	0	0	3
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		5	11	12	39
	新型コロナウイルス感染症		14	3	14	26
	急性呼吸器感染症	↑	1,541 59.27	1,131 43.50	1,405 56.20	1,777 68.35
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0
	流行性角結膜炎	↑	6	5	2	6
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0
	インフルエンザ入院		0	0	0	0
	新型コロナウイルス感染症入院		1	1	1	1

※「発生動向」欄のマークについて

< 流行状況 >

★★: 「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★: 「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

< 増減 >: マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

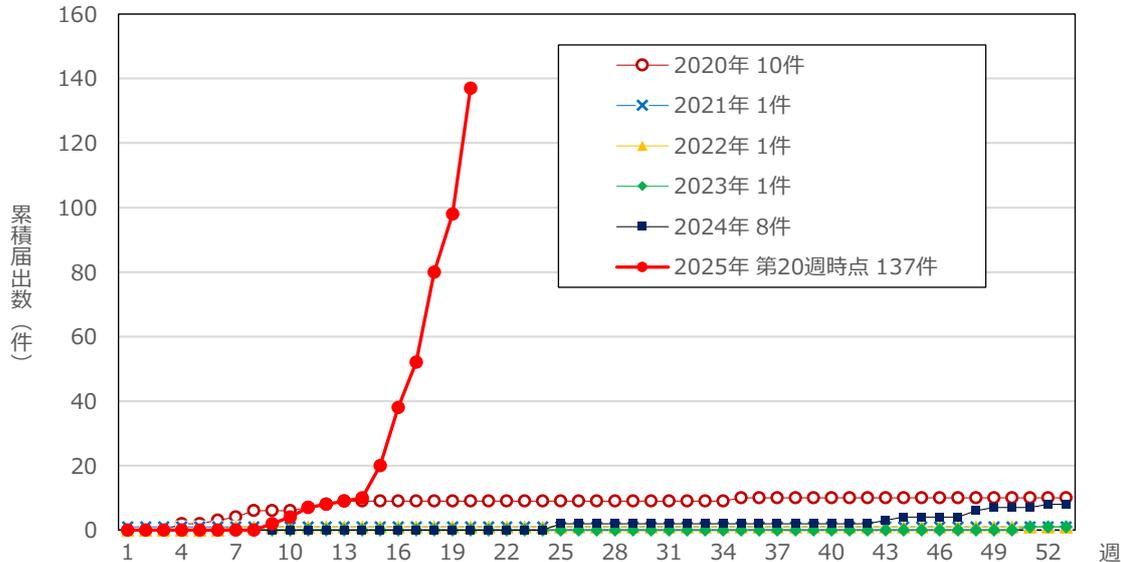
↑・↓: 「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

<百日咳>

全国の第19週現在の累積届出数は16,475件となり、調査が開始された2018年以降最多であった2019年(16,785件)とほぼ同じとなっています。都道府県別では、新潟県(1,130件)が最も多く、次いで東京都(1,112件)、大阪府(1,006件)の順となっています。千葉県は581件で全国で7番目の多さとなっています。

千葉市では第20週に39件の届出があり、2025年の累積届出数は137件となりました(図2)。

図2 年別累積届出数(2020年第1週-2025年第20週)



男性75件(54.7%)、女性62件(45.3%)で、年齢群別では10-14歳(73件、53.3%)が全体の半分以上を占めています。一方で20歳以上(25件、18.2%)の患者が20%近く報告されています(図3)。

図3 性別・年齢群別(2025年第1週-第20週 n=137)

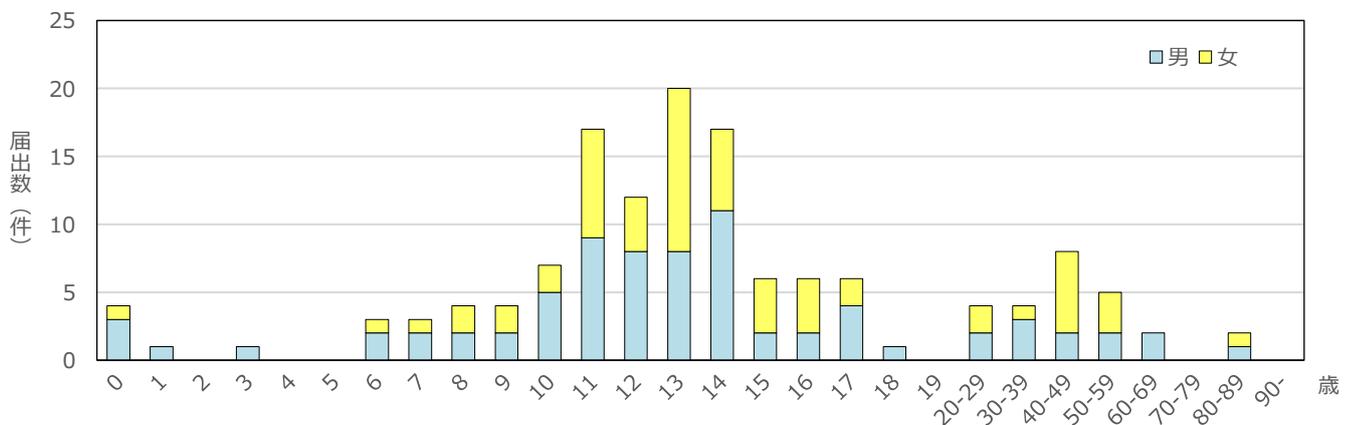
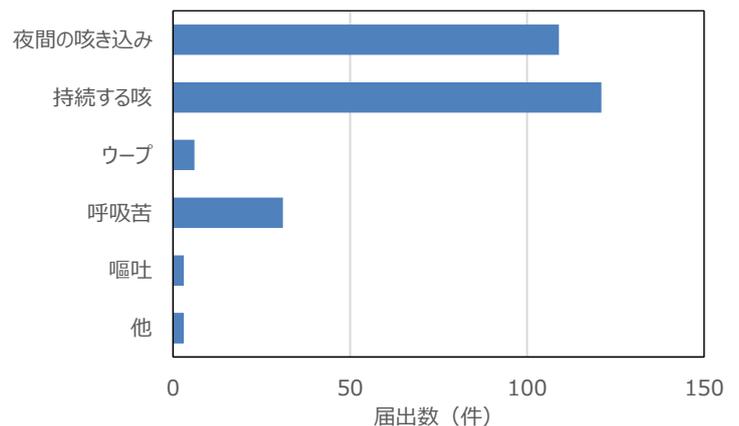


図4 症状別(2025年第1週-第20週 n=137) ※重複あり

届出票に記載してあった症状別(重複あり)では、持続する咳(121件、88.3%)、夜間の咳き込み(109件、79.6%)がほぼ8割以上となっています(図4)。



国立健康危機管理研究機構によると、COVID-19の流行とそれによる感染対策の普及に伴い、全世界的にその報告数は減少していましたが、COVID-19への感染対策が緩和されて以降、国外では2023年から、国内では2024年から報告数の増加がみられており、国内においては2021～2023年は、0～4歳の割合が前年までと比して大きく増加し、全体の約25%を占めた一方で、2024年、2025年は前年までと比して10～19歳が大きく増加し全体の約50%を占め、0～4歳の割合が減少しました。

成人では咳が長期にわたって持続しますが、症状が典型的でないため見逃されやすいことがあります。菌の排出があるため、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。国立健康危機管理研究機構は、特に乳児や妊婦が周辺にいる、成人を含む小中高生より上の年代において、長期の咳が持続する場合は百日咳の可能性を念頭にいた医療機関の受診や予防行動が有用であると指摘しています。

千葉市のサーベイランス結果では、夜間の咳き込み、持続する咳が多くを占めています。思い当たる症状がある場合は医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

<参考> 千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>